

♪コラム♪

シニアアンサンブルのための楽器知識

〔15〕ラテン打楽器 その2

生駒先生のご協力をえて、知っておれば大変助かるラテン打楽器の知識をシリーズで連載します。ラテン打楽器はざっと数えてみますと10~12種類あります。

☆カバサ

乾燥させた瓢箪のような植物に小さい木の実を巻き付けて揺すって音を出しますが最近は写真のような金属製の物が多く見られます。



大きい物では子牛の頭ほどのものもありましたが、最近はほとんど見かけません。映画『愛情物語』の中でサンバブラジルを演奏する場面に、見事なカバサの演奏が見られます。サンバ、ボサノバ等には非常に効果的な音が出せます。

☆ カフォン

Cajón {スペイン語} ハヒフヘホはjajijugejoとなる。Cajà (カハ) 箱から来た言葉で大きな箱のことであるが文字どおり大きな箱で中が空洞になって軽く叩く事で柔らかい音が出る。柔らかい感じのサンバやボサノバでバスドラムの代わりに使うと効果的で、最近はラテン音楽以外でもよく使われる。合唱の伴奏などに効果的に使われている。エレキベースよりもアコースティックベースの方が相性が良い。



☆ ボンゴ、コンガ (Bongos, Congas)

それぞれ2個ずつなので s がつく。それぞれアフリカ大陸の民族楽器だったのがキューバなどから南米に普及したとも考えられる。☆**ボンゴ**は膝で挟んで演奏するが最近ではスタンドがついたものもある。演奏は手のひらと指の組み合わせをうまく使い多彩な音色が出せる。音程の高さから、テンポの速い曲に良く使われる。

☆**コンガ** 響きを良くするために、スタンドが使われる事がある。奏法は、ボンゴとよく似ているが、音程の低さから、スローテンポのラテンナンバーに良く使われる。が速い曲でも、ボンゴ、とコンガ、の組み合わせは絶妙である。

